２０２２年度事業報告

　(令和４年１月１日～令和４年１２月３１日)

１．事業実施の方針

**子どもの心に寄り添い心を受けとめ生きる力を支援する活動の充実と発展を図る。**

1. 電話とチャットで子どもの声を受けとめる。
2. 受け手と支え手の資質の向上とモチベーションの維持を図るために定期的な研修を必修とする。
3. 全国のチャイルドラインと協力体制をとり情報を共有し運営や研修に生かす。
4. オンライン養成講座を開催し受け手を養成する。

**子どもの権利条約に保障された子どもたちを支える社会環境をつくるために地域社会に提言活動を行う。**

1. チャイルドライン支援センターに協力し全国のチャイルドラインとともに全国的な規模で受けとめた子どもたちの声を社会に発信していく。
2. 広報誌や実施報告書を発行し広報普及に力を入れる。
3. 公開講座を開催するなど、広く一般の方に「子どもの現状」の理解を広める。

２．事業の実施に関する事項

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 事　業　名 | 事　業　内　容 | 実　施日　時 | 実　施場　所 | 従事者の人　数 | 受益対象者の範囲及び人数 | 支出額(千円) |
| 1.子どもの声を聴く事業 | ①子どものための相談の実施 | 電話　　毎週月曜日・金曜日　毎月・第二日曜・第三土曜日16時〜21時オンラインチャット～6月　毎月第1・第3木曜日　　16時～21時　7月～第2金曜日と第3木曜日の追加※キャンペーンの参加　　電話8/28　8/30　チャット8/23 | 県内一ヵ所 | 延べ851人延べ276人 | 6歳～18歳1,704件605件 | 725 |
| ②研修事業の開催 | 1. 「インターネット安全教室」

大久保貴世　1/15(土)　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 | とちぎ青少年センターネット視聴 | 21人 |  | 20 |
| 1. 「逐語」

　　　　　1/28(金) | 総合コミセン | 13人 |  | 20 |
| 1. 「困った電話プロジェクト①」

栃木さおり　5/21(土) | 総合コミセン | 27人 |  | 20 |
| 1. 「ロールプレイング」

福本佳之　　6/10(金) | 総合コミセン | 15人 |  | 20 |
| 1. 「困った電話プロジェクト②」

福本佳之　　7/31(日) | 総合コミセン | 18人 |  | 20 |
| 1. 「思春期の性」

栃木さおり　7/31(日) | 総合コミセン | 27人 |  | 20 |
| 1. 「死にたいと訴える子どもへの対応」

杉山雅宏　　9/4(日) | とちぎ青少年センター | 28人 |  | 40 |
| 1. 「価値観のワーク」

下牧千佳乃　11/12(土)　　　　 | 総合コミセン | 16人 |  | 40 |
| ③支え手研修の開催 | 　1. 「支え方・情報共有・注意点」

7/12(火)　　7/30(土) | Zoom | 16人 | 　　　 | 20 |
| 1. 「オンラインの支え手」エリア研修

岡田健一　　　　　3/13(土) | Zoom | 10人 |  | 30 |
| ④オンライン研修の開催 | 1. 「オンライン養成講座①」　4/23（土）
2. 「オンライン養成講座②」　5/15(日)
3. 「逐語」

10/22(土)　10/25(火)　11/15(火)　11/16(水) | Zoomとちぎ青少年センター総合コミセン | 18人14人28人 |  | 40 |
| ⑤子どもたちに配布するカード・ポスターの作成と広報 | 年間20万枚のカード(県内全域の小学校・中学校・高等学校)ポスター1,000枚の配布 |  | 21人 | 約20万人 | 300 |
| 2.地域社会への啓発事業 | 1. 公開講座
 | 「共に生きる子どもたちを育むために」副島賢和　　4/10(日) | とちぎ福祉プラザ | 91人 |  | 120 |
| ②広報のためにイベント等に参加 | 5/22日「フェスタMyうつのみや」11/13(日)「トライ東秋まつり」11/19(日)「宮っこフェス」11/26(日)「虐待防止県民のつどい」12/18(日)「サンタdeランクリーン」 | 城址公園トライ東オリオンスクェアとちぎ青少年ｾﾝﾀｰオリオンスクェア | 延べ50人 | 多数 | 143 |
| ③広報誌や実施報告書の作成と配布 | 「報告書」1,000冊　6月「広報誌」1,500冊×2回　1月　　7月 |  | 26人 | 地域住民 | 270 |